

令和6年度 第1回大和市スポーツ推進審議会 会議録

会議名		令和6年度 第1回大和市スポーツ推進審議会
開催日時		令和6年5月30日（木）午後3時00分～午後4時10分
開催場所		大和スポーツセンター体育会館2階 会議室
出席状況	委員	9人（荻窪会長、古市副会長、姉崎委員、成田委員、山内委員、伊藤委員、林委員、鴨下委員、靱山委員）欠席：大谷委員
	事務局（担当課）等	事務局5人（スポーツ課長、他担当4名）及び文化スポーツ部長（途中退席）
	傍聴人	0人
担当課		文化スポーツ部スポーツ課スポーツのまち推進係 内線（5763）
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
<p>1. 会議次第 (1) 議題 ①スポーツ推進計画について ②その他</p> <p>2. 審議又は検討経過及び結果 主な内容は次のとおり 【議題に先立ち、新たに委員に委嘱された方も含め、全員から自己紹介】 （令和6年度より、成田委員・伊藤委員が委嘱：任期は令和7年12月31日まで）</p> <p>【議題①スポーツ推進計画について、事務局より説明 [資料1]・[資料2]】</p> <p>●委員 以前、大和市を呼称するキャッチコピーとして「女子サッカーのまち大和」「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」といったものがあるが、本計画の示された案の中に記載はなく、それらは過去のものとして取り扱わず、新しい標語や体系を目指すのか。</p> <p>○事務局 次期計画にも「女子サッカーのまち大和」という標語は、「する」、「みる」、「ささえる」、「つながる」の4つの視点のいずれかに記載することを検討している。</p> <p>●委員 指標における目標値について、「パーセント表記」と「実数表記」と表記が入り乱れていることに対して根拠があるのか。全体を通して「パーセント表記」の方が理解しやすく感じる。例えば、地域の高齢者が「何パーセント実施している」と言えば、イメージがしやすいが、「何人が実施している」だと全体的に規模感が分かりづらいと感じる。</p> <p>○事務局 これまでの計画において、指標として積み上げてきた数値があるものと、指標が実数でしか取得できないものがあり、基本的に実績値が取得できるものは実数に置き換えた方が、より現実的であると判断している。「するスポーツ」への働きかけとして、教室等を開催し、そこへ参加していただいた人数が増加すれば、「働きかけができています」と判断できる。またアンケート実施方法として対象者が16歳以上の市民を対象としており、全市民を対象としていないことからパーセントで表記せざるを得ないところもある。こうした理由から表記が混在しているが、指標の取り方等も含め、ご協議いただきたいと考えている。</p> <p>●委員 健幸の「幸」について、別の会議（健康づくり推進課）でも同様の表記であったが、市民の意識に浸透していないと感じており、改めて表記する意図について、ご教示いただきたい。</p> <p style="text-align: right;">次頁に続く。</p>		

○事務局

現在、大和市では新総合計画を策定しているところで、この新総合計画において「健幸」と表記していることに合わせ、本資料を作成している。新総合計画と次期スポーツ推進計画の策定は同一年度に策定を進めているため、今後、示される新総合計画の状況を勘案しながら次期スポーツ推進計画に盛り込んでいくことを考えている。

●委員

関連で、「幸」について、「ウェルビーイング」という単語が最近よく聞こえるようになったが、何の意味があって使用するのか。これの定義づけが、最初に説明がないと計画の表現について、意味が不明確となる。

「つながる」は、以前の計画策定の際、国や県に先駆けて大和市が独自性を出したものだが、主語が何なのか、スポーツをする、スポーツをみる、スポーツをささえる場合は良いが、スポーツがつながるではなく、スポーツでつながるだと思ふ。この会議にかける前に専門家などに意見を聴取しているのか気になる。「つながる」については、もっと単純な話して例えば、同じ種目のスポーツを行っている団体同士が連携して「つながる」といったものであったはずである。

改めてこれらを通して「ウェルビーイング」や「幸」というのであれば、その意味を明記しないと不明確なものになってしまう。

○事務局

まず「つながる」について、ほかの「する、みる、ささえる」と同様に視点のひとつであると捉えている。「つながる」ことは、それぞれの団体の活動を通してつながっても良いし、人と人がつながって、健康と幸せがつながるといのがテーマだと捉えている。

●委員

今の説明を受けて分かってきたが、やはり「つながる」について、もう少し説明が必要である。「する、みる、ささえる」の主語はスポーツであり、「つながる」は「それによって」だと思ふが。

○事務局

資料を作成する過程で、委員指摘の考え方を持った。ただ、これからという意味で、つながりの視点において、例えば綾瀬市と地域連携を行うことや、日本体育大学との連携が新しく生まれてくるといった事業の中でも拡大する動きがあるので、視点の「する、みる、ささえる、つながる」として同じ比重でスポーツ全体を繋げていきたいと考えている。

●委員

以前の発想では、仲間同士が繋がっていいこうではないか、スポーツ推進委員と総合型が繋がっていいこうではないかという結果、各種目団体が繋がっていき広がっていくイメージであった。それを他市と連携するといった大規模な発想であれば、スポーツ推進計画の策定に記載しないとけない。

○事務局

施策の方向性、事業として、これから明記していくことになる。また、委員指摘の「する、みる、ささえる」と比較して「つながる」の位置づけに違和感があるとのことだが、これは国や県のスポーツ推進計画を参酌し記載しているものである。これは主体的にスポーツの取り組みを行うことによって、社会の活性化や地域コミュニティの醸成、人とのつながりだということも謳われており、上位計画である総合計画の柱となる部分を鑑みながら、第2期スポーツ推進計画の柱の部分でもあった4つの視点については、次期スポーツ推進計画においては大きく変更する必要性はないというのが、本件での提案趣旨となる。

●委員

資料2 P.12にある基本理念の図の「つながる」について、違和感を覚えた。「つながる」が連続して掲出されているので、もっとわかりやすく工夫して表記すべきではないかと考えるが。
次頁に続く。

○事務局

資料を作成する過程で、いくつかパターンを思案していたところなので、改めてご確認いただけるように準備していく。

●委員

もうひとつ、「ウェルビーイング」を使わなくてはいけないのか。「健康・幸せ」が「ウェルビーイング」なのか、また別の定義なのか、はっきり説明しないといけないのではないかと。あえて英語表記ではなく、市民が見るものとして万人に理解されるものである必要があるのではないかと。

○事務局

委員指摘のとおり、万人に理解されるよう、素案を示す際には、言葉が混在しないようお示ししていく。ウェルビーイングの表記は上位計画である総合計画に使用されるかを注視し、基本的には健幸として取り扱うこととなると思われるので整合性が取れるものとして資料を作成していく。

●委員

資料2 P. 20にある新指標について、勿体無いと感じる。これは「する、みる、ささえる」に該当しなかった人の数値であり、理念の説明にあったように「する、みる、ささえる」に該当する人と人を算出した方が「つながる」といった数値になるのではないかと考える。

○事務局

委員指摘のほか、経年で把握できる数値であるか、手法そのものについて検討していく。

●委員

意見になるが、また先ほどの質問と重複するが、「ウェルビーイング」については、今流行りの言葉だと思う。ただこの計画については令和11年まで使用するものなので、あとで埋もれてしまわないよう、なるべく恒久的な言葉を選択し策定していったほうが良いと思った。

【議題② その他】

次回開催：令和6年7月 改めて日程調整の連絡を事務局より展開。

審議終了

以上